

【議案1】

ESD-J 2023年度 事業報告（案）

< 2023年4月1日～2024年3月31日 >

I 概要

2023年度は、日本全体がコロナ禍から脱却した年であり、一方で多くの地域で対面での集会在復活した年でもありました。他方でコロナ禍を経て急速に発達したオンライン会議方式により、様々なイベントがオンライン方式で開催され、空間的な制約にとらわれることなく、多くのイベントに全国どこからでも参加できるようになった年でもありました。

そのような状況を踏まえ、ESD-Jでは東北、関東、中部、近畿、九州・沖縄の地域担当理事が中心になり、各ブロックにおける特徴的な活動を紹介するオンラインセミナーを5回開催しました。そのほか、オンライン方式で開発協力大綱のパブコメに向けた勉強会、次期教育振興基本計画を読む会なども開催されました。人材育成に関するその他の活動としては、昨年度に引き続き岡山でのESDコーディネーター研修が行われました。

政策提言活動に関しては、2023年度には第4期教育振興基本計画、開発協力大綱、環境教育等促進法基本方針等、重要な国の計画に関するパブリックコメントが行われました。ESD-Jでは、会員の皆さんにそれらの情報を周知するとともに、説明会を開いて団体として意見を提出し、あるいは会員個人としての意見の提出を奨励する活動を行うとともに、第2期ESD国内実施計画や生物多様性国家戦略2023-2030に基づく活動の実施に努めました。

国際分野での活動は、2023年度は国際MLを通じて国際情報の国内への発信を約70件行うとともに、12月に東京で開かれたESD-Net 2030 Global Meeting等に参加し、ユネスコ及び各国のESD関係者と意見交換を行いました。この年の主な活動としては台湾環境教育学会との交流の一環として、阿部相談役を含む3人が台湾を訪問し、日本のESDについて講演するとともに、台湾環境教育学会とESD-Jとの連携協定の調印式を行いました。また、2024年5月～6月にかけて約30人からなる台湾の教員等の訪日団を受け入れるため、そのための準備を進めました。

そのほか、会員へのサービスとして、毎週メルマガの配信、四半期毎にESDに関するニュースレターを発行するとともに、ESD活動支援センターの情報発信業務の支援、日本環境教育フォーラム（JEEF）を通じて環境教育等促進法の改定に関する環境省検討会の議事録作成等に関する支援などを行いました。

また、組織基盤の強化に向けた検討を進め、2024年度の総会で一定の結論を得るべくESD-J内で理事会、意見交換会を開催し、取りまとめた報告（案）を2024年3月に会員に公表し、説明会を開くとともに、意見募集を行いました。議論を通じて明らかになった主なポイントは、理事間のコミュニケーションの改善と理事活動の活性化、コロナ禍により減少していた会員とのコミュニケーションの強化でした。2024年度に向けてそれらの改善を図っていきたいと考えています。

II 人材育成事業

1 取組1：ESD-Jが実施する研修事業

(1) オンラインセミナーの実施

① オンラインセミナーの目的：ESDの活動の発信による会員サービスの提供、他団体等との連携促進等。地方担当理事による地方の取り組みの提示による地方のESD関係者・団体へのアプローチを通じた会員拡大の模索等を行うことである。

② 2023年度計画：今年度は地方担当理事の活動している地域での取り組みを紹介する企画のオ

【議案1】

オンラインセミナーを実施する。理事が自団体で実施するイベントと協働するなど、理事の負担にならない方法を検討し、年間6回程度の実施を目指した。

- ③2022年度に実施した「税とサステナビリティ」がテーマのオンラインセミナーに関しては、2023年度に更に詳しい税（実務）のセミナーの実施を検討することになっていたが、地方担当理事主催のセミナーが順調に開催されており、日程的に実施が厳しかった。

<実績>

開催月	テーマ	担当
8月5日（土）	地球温暖化に挑む海洋教育プログラム教員等研修会 （三菱財団助成共同研究） 報告： https://www.esd-j.org/report/tohokuws/	東北の取組 （浅野理事）
10月9日（月）	市民調査で持続可能な社会を創る ～スーパーマーケット環境調査の結果を活かし、広める～ 報告： https://www.esd-j.org/report/kinkiws/	近畿の取組 （松田理事）
12月16日（土）	ESDとジェンダー ～北九州の事例を基に、ジェンダー平等に向けたESDの可能性を探る～ 報告： https://www.esd-j.org/report/kyushuws/	九州・沖縄の取組 （三宅理事）
12月26日（火）	ヤマネ・いきもの研究所の2023年をふりかえる 報告： https://www.esd-j.org/report/kantows/	関東の取組 （鳥屋尾理事）
2月24日（土）	学校教育における愛知県のESDの今とこれから 報告： https://www.esd-j.org/2024/01/23/aichischoolesd/	中部の取組 （新海理事）

四国の取組、中国の取組に関するオンラインセミナーの実施は、理事のスケジュールの都合上、実施出来なかった。

【オンラインセミナーの要旨】

参加者人数（延べ）	115名（ESD-J主催に限る）
各回の参加者数（関係者除く）	第1回6名、第2回（ESD-Jが主催でないため把握できず）、車座トーク36名、第3回23名、第4回11名、第5回17名、第6回22名 （2023年度平均19名、2022年度平均17.3名、2021年度平均25名）
リピーター数	理事5名、一般6名
アンケート回答者数	82名
非会員率	59%（2021/2022年度の非会員率60%）

(1) 人材育成WG

開催の時期、各回のテーマ、プログラム、開催方法等について、担当理事の意向を聞きながら上記のオンラインセミナーの企画の調整、運営補助を事務局が行った。

<2023年度の勉強会>

政策提言WG、国際連携WG主催の回はオンラインセミナーという形を取らず、勉強会などの形で開催した。

【議案 1】

開催時期	主催	内容(案)
4月28日実施済み	国際連携WG	開発協力大綱のパブコメに向けた勉強会
6月24日実施済み	政策提言WG	車座トーク「次期教育振興基本計画案を読む会」

以下の勉強会については、年度当初に実施を検討していたが実施できなかった。

- 環境教育促進法基本方針のパブコメに向けた勉強会
- 国連SDGs中間年サミット及び関連イベントのブリーフ
- 気候変動教育の勉強会、気候変動COP28事前勉強会
- 生物多様性国家戦略と学校等との関わりの研修
- 第12回世界環境教育会議（WEEC2024）ブリーフ

(3) 国際連携WG

① 開発協力大綱への対応

2023年4月5日に開発協力大綱の改定案が公表され、5月4日締切としてパブリックコメントが開始された。ESD-Jとして、「開発協力大綱改定に関する市民社会ネットワーク」からのアンケートに回答するとともに、開発協力大綱改定案に関する会員対象の勉強会を4月28日に開催し、ESD-Jとしてのパブコメへの意見提出を行った。

② 国際会議等に関する事前ブリーフィングとして、以下のブリーフィング・セッションを企画することとしたが、その実施状況は以下の通りである。

国連SDGs中間年サミット及び関連イベント、気候変動COP28事前勉強会については、事前に十分な情報が得られなかったため、国際MLでの情報提供に変更し、会議の開催結果の報告を行うことに変更した。第12回世界環境教育会議については現地対面参加のみとなり、参加者がほとんどいないため、事前のブリーフは中止した。

(4) 政策提言WG

ESDやSDGsに関する政策や制度に関わる政策提言をESD-J会員や地域の声を聴きながら進めた。また、関連団体と連携し、NGO/NPO連帯としての政策提言活動を行った。政策提言を作成するために必要な情報収集や学習会、セミナー等を企画実施した。

2023年6月24日に車座トーク「次期教育振興基本計画案を読む会」を実施した。次期教育振興基本計画の特徴、改定のポイントを学ぶと共に、ゲストの開発教育協会（DEAR）副代表理事・近藤 牧子さん、全国小中学校環境教育研究会 棚橋 乾さんより、それぞれのお立場からコメント、ご提案等をお話し頂いた。参加者人数は48名（司会1名、ゲスト2名、事務局3名含む）だった。

○車座トーク報告：<https://www.esd-j.org/report/esdcirclenet2023/>

(5) 生物多様性タスクフォース（TF）

① 生物多様性昆明・モンテリオール世界枠組と生物多様性国家戦略に関する研修会

生物多様性国家戦略2023-2030の策定を受け、その内容について学ぶとともに、教育界においてどのような対応が求められるか、何が実施できるかを生物多様性タスクフォースが中心になり検討する。特に、小中学校を中心とする学校教員の理解を深めるための周知普及、研修活動を行う。2023年度において3回程度の研修会の実施を目指したが実施できなかった。

② 教育者向けの生物多様性啓発・研修プロジェクト

【議案1】

教育者に対して生物多様性の啓発を進め、関係団体と連携して生物多様性に係る研修を行うため、以下の2つの申請を行ったが不採択であった。

- ア 森村豊明会の助成金：教育者に対する生物多様性の現状と課題を啓発するための教材の開発と研修の実施
- イ 地球環境基金（ひろげる助成）：生物多様性の学校教育等への普及を目指し、①昆明モントリオール生物多様性国際枠組、生物多様性国家戦略2023-2030を踏まえた新たな生物多様性の動向に関する教育者への啓発教材を開発・周知するとともに、②学校等における生物多様性モデルプロジェクトを行い、発達段階に応じた生物多様性教育のモデルカリキュラムを開発し、環境教育指導資料に組み込み、2028年度に改定が予定される学習指導要領に組み込むことを目指す。また、教員養成大学等と連携することにより、教育者に対する研修を行うとともに、教育者に対する最新の生物多様性情報を提供するための知識ベース（科学者と教員との対話のためのプラットフォーム）づくりを行う。

生物多様性国家戦略と学校等との関わりの研修については、環境省からの資料提供が遅れているため開催しなかった。

(2) イベントの主催、実施

会員、一般の方々にESD-Jの活動、並びにESDに関連する様々な分野の活動に関心を高めてもらい、ESD的な行動変容を起こすきっかけ作りを積極的に行う。

2 取組2：効果的な情報発信の実施

(1) ESD活動支援センター事業の情報収集・発信業務

昨年度に引き続き、日本環境協会（JEAS）との契約に基づき、全国センターのウェブサイトを活用してESD活動に関する国内外の情報等の収集及び一元的な発信業務を行った。2023年度は、地方に関する情報は、5月以降は地方センターが発信することとし、全国センターからの発信（ESD-Jが担当）は全国規模の情報及び海外の情報のみを発信することとなった。理事からの情報提供の支援を受けつつ、情報の整理・発信等の実務は鈴木理事、事務局横田、及び齋藤が担当した。具体的な業務内容の概要は以下の通りである。

① 国内外のESD活動に関する情報の収集、整理、発信（3月31日時点）

- ア 海外の情報：国連、ユネスコ及び国連大学等国連関係機関並びに海外のNGO、企業等が発信する情報を55件収集・整理した。
- イ 国内の情報：国の行政機関、協力団体等全国規模の団体及び地方の団体等が発信する情報で、広く全国に伝えることが有益と考えられるものを461件収集・整理した。

上述の収集・整理した情報を全国センターのウェブサイト（<https://esdcenter.jp/>）に掲載した。

3 取組3：ESDの取り組みに関する評価手法の整理

既存のカリキュラム・制度等の整理、ESDの取り組みに関する評価手段の開発については、引き続き検討を進める。

【議案1】

4 その他の取り組み

(1) HESDフォーラム推進事業

第16回HESDフォーラムを2023年12月16日に芝浦工業大学にて、ハイブリッド方式で開催し、芝浦工大の学生を含め、約300名が参加した。

(2) 羅臼町における持続可能な地域社会づくりに向けた人材育成事業

2023年度も羅臼町立春松小学校と西表島上原にある竹富町立上原小学校との交流が行われた。今で行われていたWebによる交流に加え校長と教諭、5年生の児童2名が実際に訪問したので両校の交流は一層深まりを増した。また、2022年度開始した知床ユネスコ協会主催の4つのユネスコスクールの高校の交流事業は12月2日実施された。今年度からESD-Jも後援者に名を連ねた。

(3) 令和5年度ユネスコ活動費補助金SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業

芝浦工業大学による「インカレSDGsプロジェクト：異世代・地域・学校連携型で個別最適な学びと協働的な学びを同時に実現するSDGs達成活動」の実施に際し、協議会形式のコンソーシアムの形成のための業務補助を実施しており、文部科学省、ユネスコスクール事務局、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク関東4大学をはじめとする関係機関と意見交換し、参加機関20機関、関係機関・専門家29機関・人からなる関係者リストを作成した。このリストを基に、7月21日に第1回インカレSDGsプロジェクト推進協議会準備会合を、10月26日に第2回準備会合を、2024年1月25日に第3回準備会合を開催したほか、12月16日にプロジェクトの合同発表会を芝浦工大で開催した。第3回準備会合で協議会の規約（案）を提示し、関係者からの意見募集を行った。その結果を踏まえ、2月に第4回準備会合をメール審議方式で開催し、当面の最終案を作成した。

(4) 「令和5年度今後の環境教育・学習施策のあり方検討支援業務」の支援

JEEFが採択した同業務の一部業務をESD-Jが担い、11月16日までに開催された6回の会議の議事録・議事要旨の作成、環境省・委員が求めた資料作成のための調査を行った（調査・資料作成は1度のみ実施）。

(5) 令和4年度環境教育等促進法基本方針再改定に向けた海外環境教育事例等調査業務のフォローアップ

「令和4年度環境教育等促進法基本方針再改定に向けた海外環境教育事例等調査業務」の実施に際し、オーストラリア、イギリス、ドイツの専門家から、業務を実施した国の中で成果の共有をできないかとの希望が寄せられていたことを踏まえ、業務を実施した7ヵ国及び日本の業務関係者による任意の非公式、小規模な意見交換会の開催をESD-J主催で実施することとしていたが、実現できなかった。

(6) 岡山ESDコーディネーター研修の企画・運営

岡山地域「持続可能な開発のための教育」推進協議会（岡山市市民協働局市民協働部SDGs・ESD推進課）より業務委託され、中国地方担当理事である池田理事が現場実務を担当した。本業務は、「岡山ESDプロジェクト」の重点取組分野に掲げている「人材育成」の一環として行う「ESDコーディネーター研修」の9年目で、ESD企画書作成ワークを通して実力のつく研修プログラムの実施に努めた。実施にあたっては、岡山地域の人材を活用することで、研修のノウハウを岡山地域に蓄積できるようにした。

① 事業期間：2023年6月15日～2023年3月15日

② 事業の趣旨：SDGsを視野に入れた地域づくりのために、グローバルな視野を持ちながら、

【議案 1】

地域を舞台とした課題解決に向けた学び合いや、活動の場を企画・実施するとともに、様々な人や団体をつなぐことができる人材（ESDコーディネーター）に必要な考えやスキルを身につけられる研修を行う。

③ 受講者人数：17名

④ 内容：

ア 第1回研修（ESD/SDGs及び企画の全体像を理解する）

〔内容〕「ESD・SDGsとは?」、「事例から学ぶ」、「企画について：企画書の書き方と解説」、「Q&A」、「ふりかえり、わかちあい」等。

イ 第2回研修（個別相談会）

〔内容〕受講者1人当たり約1時間の個別相談

ウ 第3回研修（プロジェクト・講座の作り方を理解する）

〔内容〕「第1回のふりかえり」、「各自の企画の紹介」、「企画の概要書づくり」、「企画の概要書を書いてみる」、「グループワーク」、「Q&A」、「ふりかえり」等。

エ 第4回研修（企画の発表と実践に向けて）

〔内容〕「企画書発表会」、「研修全体のふりかえりとQ&A」、「みんなのカレンダーづくり」、「全体総括（今後の取り組みについて、ふりかえりシート記入、修了証授与とふりかえりの発表等）」等。

オ 修了生交流会（過去の修了生及び今年度受講予定者が交流できる場）

〔内容〕過去の修了生及び今年度受講予定者の交流等。

参加者の満足度は今年度も高く、また参加したいという人が幾人もいた。良い研修だと口コミで広がっている。講師からは、スタッフも先輩として講師と共にアドバイス等を行っており、今後も適任者がいれば、修了生等の中からスタッフを増やしていき、一緒に研修をつくっていくようにしたい。みんなで育てていく研修会の仕組みにしたいといった所感があった。

(7) 営業活動

2022年10月に小玉理事と横田が所沢市役所環境クリーン部マチごとエコタウン推進課を訪問し、所沢市の吾妻まちづくりセンター、並びに三ヶ島まちづくりセンターからの講師派遣依頼の実績を踏まえ、所沢市マチごとエコタウン推進課に同様のニーズが他のまちづくりセンターあるかどうかの確認と、同市でのSDGs/ ESD/ 環境教育の推進のために連携ができないかの打診をした。その後、所沢市マチごとエコタウン推進課が同市内の公民館全館にESD-Jが講師派遣できることについて宣伝してくださった。また、2023年8月に小玉理事、事務局後藤、齋藤が同市のイベント「子どもサミット」を見学し、関係者とその場で意見交換し、また同イベントの改善提案を作成した。同イベントのみならず市のイベント・活動全体を繋ぐ包括的な事業の見直し提案、ESD-Jと同市との連携の可能性について記載した提案書を作成し、9月26日にオンラインでマチごとエコタウン推進課の担当者2名にプレゼンした。来年度の協働の可能性について10月中旬に同課から連絡が来ることになっていたが、所沢市長の交代が10月末にあったこともあり具体的な話は進まなかった。

(8) 参加報告 ESD-NET 2030 Global Meeting

2023年12月18-20日に開催された第1回ESD-NET Global Meetingには、約80カ国から約300名の参加があり、ESD-Jからは浅井理事、浅野理事（1&2日目のみ）、事務局・横田（1&3日目のみ）が参加した。

ESD-NET 2030とは、2030年に向けたESDの実施を促すことを目指して、加盟国と関係者の双方を支援するために立ち上げられたグローバルなネットワークである。

【議案 1】

今回の会議は、以下を目的として開催された。

- ①教育の変革という文脈の中で、ESD for 2030がいかに教育の質と関連性を強化するかを実証すること
- ②ESD for 2030プログラムの下で、持続可能な開発の課題に対する体系的な教育的取組（国・地域）を開発すること
- ③国・地域レベルでの「2030年に向けたESD」の実施に向けたマルチステークホルダーの関与の強化

2024年6-7月にマレーシアにおいて、ESD-Netのアジア太平洋地域ミーティングが開催されることも発表された。引き続き情報交換・収集をしていく。

○報告の詳細：<https://www.esd-j.org/report/esd-net-2030-global-meeting/>

III 政策提言事業

1 提言に向けた会員・現場からの意見交換と情報収集

(1) 会員・非会員による政策提言学習会の開催

- ①各地域で活動するESD-Jの会員の声を汲み上げ、今後どのような対象にどのような内容の提言をすることが必要かを十分に検討する。
- ②オンラインセミナー担当者と協議しつつ、学習会の企画・運営に携わる。
→車座トークとして6月に「次期教育振興基本計画案を読む会」を実施した。

2 環境省・文部科学省など関係省庁への提言活動

(1) 会員及び他団体とのコミュニケーションを踏まえたESD円卓会議での提言書の提出

- ①文部科学省及び環境省にESD円卓会議の開催を求めていく。
- ②開催した場合に、会員と円卓会議に参加しない他団体と十分に協議した上で、ESD-Jの意見を円卓会議で発言する。
→2024年1月末時点でESD円卓会議は予定されていない。

(2) ESD/SDGs諸政策に係るパブリックコメント等への積極的な対応

ESD-Jの活動に関係するパブリックコメントの機会をとらえ、会員からの意見を促すと同時に、必要があればESD-Jの意見を該当機関に積極的に伝達する。

① SDGs実施指針の改訂に向けた政策提言について

2023年11-12月に持続可能な開発目標（SDGs）実施指針改定案の意見募集があり、会員への意見募集を周知し、意見提出を促したが、ESD-Jとして意見を集約し、提出することはできなかった。

② 第4期教育振興基本計画のパブリックコメントについて

上述の通り2023年6月24日に車座トークとして「次期教育振興基本計画案を読む会」を実施し、DEAR、棚橋さんをゲストとしてお招きし、政策提案を行うための意見交換を行った。参加者から車座トークの際、またアンケートの中で出た意見・質問等については文科省に提出するためにDEARの近藤さん、中村さんとともに意見書としてまとめ、文科省に提出した。文科省に本件に関する説明の機会を求めたが、多用のために叶わず、書面で回答を得た。その回答

【議案 1】

はESD-J会員、DEAR会員に共有された。

③ 生物多様性国家戦略のフォローアップについて

今年度も「2030生物多様性枠組実現会議（J-GBF）」等に参加し、また、環境省等生物多様性関係者との意見交換を行い、教育関係機関の果たす役割の重要性について強調するとともに、生物多様性に関する教育者への周知と理解の向上、生物多様性分野の専門家と教育者、特に小中学校の教員との交流機会の創出に向けた仕組みづくりを検討した。

④ 「開発協力大綱」改定に関して

開発協力大綱改定に関する市民社会ネットワークに引き続き参加し、情報収集及び意見交換を行う。開発協力大綱改定案に関する勉強会を2023年4月28日に開催し、ESD-J会員等の意見を聴取し、パブリックコメントへの意見提出（5月4日締切り）を行った。

3 ESD議連及び地方議員へのロビー活動（選挙の際の政党への質問書の提出、政策対話の実施等

(1) 国政選挙前に各党に質問書の提出

国政選挙だけでなく、会員が活動する各地域の選挙に関しても適宜質問書を提出する。

各党政策担当者に向けて、「持続可能な社会づくりとそのための人づくり（ESD）に関する公開質問状」を送付、これまでの各政党の政策の評価や分析、回答の内容に関する議論等も可能な限り実施する。

→本活動は実施出来ていない。

(2) ESD議連/地方議員へのロビー活動

政治の動向を精査した上で、必要な時期に該当議員及び議連にロビー活動を行う。

暫くはESD議連の開催が難しいために、議連関係者（会長、幹事長、事務局長等）へは個別に情報の提供を行う。

→本活動は実施出来ていない。

4 気候変動問題に取り組む関係団体と連携した提案・提言の作成

(1) 他団体と協働した気候変動教育に関する提言の作成

他団体の研究と実践の動向を踏まえた上で、該当する省庁及び自治体に気候変動教育に関する意義と内容について提言する。

他団体と協働した気候変動教育に関する勉強会や提言の実施を検討する。ただ、多くの団体が気候変動問題に取り組んでいるので、ESD-Jがどんなスタンスで何をすべきかを明確にして取り組みを検討する。

→本活動は実施出来ていない。

(2) 気候変動教育に係る環境省との政策対話

上記1・(1)と関連して、文部科学省又は環境省の担当者を招聘して政策対話をする。

昨年度に引き続き、今年度も気候変動教育に係る政策対話が行われるセミナー、フォーラム等に積極的に参加することとしているが、これまでのところ気候変動教育に関する政策対話的なセッションは開催されていない。12月9日に予定されるESD活動支援センターの全国フォーラムに期待する。

【議案1】

→本活動は実施出来ていない。

(3) 気候変動枠組条約に基づくACE作業計画に関する外務省との意見交換等

2021年のCOP26で採択されたACEグラスゴー作業計画への取り組みに関し、フォーカル・ポイントである外務省から日本の取り組みに関する情報を収集することとし、外務省に意見交換を申し出た。現在外務省の返答を待っている状態である。

2022年9月の教育の変革サミットで合意されたGreening Education Partnership (GEP) については、UNESCO主催のウェビナーシリーズの情報を会員に提供するとともに、ウェビナーに参加している。

(4) 「環境保全活動、環境保全の意欲の増進及び環境教育並びに協働取組の推進に関する基本的な方針」の改定について

「環境教育等促進法」第7条に基づき策定される「環境保全活動、環境保全の意欲の増進及び環境教育並びに協働取組の推進に関する基本的な方針」の改定に関するパブリックコメントに意見提出を行った。

○ESD-Jの意見書：<https://www.esd-j.org/wp-content/uploads/2024/03/20240305PubCom.pdf>

IV 国際連携事業

鈴木克徳理事、三宅博之理事、宇賀神幸恵会員、野口扶美子会員がWGメンバーとして活動しているが、さらにWGメンバーの拡大を検討することとし、広く会員に対し、WGメンバーの募集を行う方針。

1 取組1：海外との情報の相互発信と学び合い

(1) 地域の実践に活かすための海外情報の国内発信

2023年度も引き続き国際MLを通じて国際会議の開催情報、結果情報、その他主要な国際的動向等の情報64件プラス関連する追加情報を発信した。

(2) ESDに関するアジアNGOネットワーク (ANNE) の再構築を含む国際的なESDネットワーク活動

ANNE再構築に向けた加盟団体の現状の調査・確認を行った。マレーシア、インド、タイ等との情報交換を進め、ANNEの再構築に向けた議論を行った。12月18・20日に国連大学で開かれたESD-Net 2030の活動にESD-Jとして参加した。UNESCO-U'NFCCCのウェビナーシリーズ「Road to COP28」、UNESCO-OECD等によるGreen Schoolウェビナーシリーズ等へ参加するとともに、国内関係者への情報の周知、参加の奨励を行った。韓国や札幌で開かれた国際会議に参加し、日本のESDに関する取り組みについて発表した。

(3) 将来海外に出ていける人材育成としてESD/SDGsをテーマとした英語での学習機会の提供 (ESDの知識習得)

2022年度に引き続き実現可能性、実施方策を検討し、学習会の企画案を作成するとともに、潜在的に学習会に参加する可能性がある大学の学生等に関する調査を行う。

→これまでのところ進展がない。

(4) ESD国際活動に関心のある団体を集めた会議の開催

日本ESD学会が実施する「ESD国際交流活動に係る情報交換会」に参加し、貢献することとし

【議案1】

ていたが、情報交換会は開催されなかった。

(5) 海外におけるSDGs・ESD情報発信

2023年度から、海外在住の日本人を通じて海外におけるSDGs・ESDへの取組状況に関する情報として、中国の情報を発信した。

2 取組2：関係者とのグループ形成の検討等

(1) 関係者の情報データベースの構築（既存の報告書などをまとめ相互参照できるようにする等）

Gram Nidhiプロジェクトの情報の提供等、ESD-Jのウェブサイトへの国際関連事業の情報の提供と改善・充実に向けた検討を一部行った。

(2) 国際的なESD活動に関心のある者のリストアップ、参画の呼びかけ

特に若手研究者、活動家等を中心に、国際的なESD活動に関心を有する者のリストアップとメンバーリスト化を検討することとし、COND関係者と意見交換したほか、次世代ユネスコ国内委員会委員との意見交換を企画している。

(3) 過去にESD-Jの国際事業に関わった方（元理事含む）へのヒアリング

ヒアリング候補者として、阿部相談役、大前純一さん、大島順子さん、二ノ宮リムさちさん、竹内よし子さん、池田誠さん等を特定。順次、ESD-Jにおける国際連携活動の在り方に関する意見をお聞きすることとし、これまで竹内さん、阿部相談役からのヒアリングを行った。

主な指摘事項として、海外の団体との連携だけでなく、国内でESDに関連する国際活動を行っている団体との連携も重要との指摘が行われている。

3 取組3：国際事業の実施と継続性の担保

(1) アジアNGOネットワーク（ANNE）をベースにした国際事業の実施

インド西ベンガル地域における気候避難民の実態を調査し、彼らが直面している様々な困難・課題を明らかにするとともに、彼らが生活の糧を得る手段を模索し、そのためのキャパシティ・ビルディング等について提言するようなプロジェクトを、インドCEEと連携して2年プロジェクトとしてトヨタ財団に提案することを検討したが、諸般の事情から断念した。

日本万国博覧会記念基金に応募した事業が採択されなかったことを踏まえ、これまで情報・意見交換を行ってきた韓国のRCEドボン区とインドネシアのビンタリ財団と連絡をとった。RCEドボン区とは、引き続き気候変動教育に関する情報・意見交換を続ける旨通知し、RCE北九州の支援を得ながら交流を継続する。ビンタリ財団とは、気候変動に限定せず、幅広い連携・協力についての意見交換を継続する。

(2) 台湾環境教育学会（CSEE）との交流

2023年9月1日～5日にかけて、小玉理事、鈴木理事、阿部相談役が台湾環境教育学会からの依頼により台湾を訪問し、台湾環境教育学会（CSEE）主催のシンポジウムで日本のESDへの取り組み等について講演した。

2024年5月29日～6月4日にCSEE訪日団を受け入れる事が決まり、その準備体制として、ESD-Jが日本環境教育学会と協力して実施するよう、日本環境教育学会との覚書（案）を作成し、実行委員会を3回開催した。また、訪日時のスケジュール（案）を作成し、台湾側の同意を得た。引き続き、国内の関係団体と調整を進めていく。

【議案1】

必要とされる経費については、日本側関係者の交通費等の諸経費については日本台湾交流協会からの助成を得た。歓迎会の台湾側関係者の経費については台北駐日経済文化代表処からの助成を得ることが決まった。

V 運営体制、及び組織基盤強化

1 ESD-J運営体制（2023年度）

■ 役員（理事13名、監事2名、相談役2名、顧問4名）

役職	氏名
代表理事	小玉 敏也、鈴木 克徳
副代表理事	浅井 孝司、池田 満之、新海 洋子
理事	池田 満之、小玉 敏也、新海 洋子、鈴木 克徳、鳥屋尾 健、福井 光彦、三宅 博之、松田 直子、浅野 亮、浅井 孝司、金澤 裕司、松浦 英人、與儀 滝太
監事	浅見 哲、吉岡 睦子
相談役	阿部 治、重 政子
顧問	池田 香代子、岡島 成行、廣野 良吉、高木 幹夫

（注）2022年5月の小金澤理事の逝去、2023年3月31日付けで野口理事が辞任したことに伴い、理事枠2名分の欠員が生じた。

■ 役員役割表

役割	氏名
組織運営委員*	浅井 孝司、池田 満之、小玉 敏也、新海 洋子、鈴木 克徳
総務・労務・経理担当理事	浅井 孝司、池田 満之
広報担当理事	福井 光彦、松田 直子
全国センター情報収発信	鈴木 克徳
人材育成事業	小玉 敏也、金澤 裕司、鳥屋尾 健、與儀 滝太
政策提言事業	池田 満之、小玉 敏也、新海 洋子 生物多様性TFには、鈴木 克徳理事、浅野 亮理事、安田昌則会員が参加
国際連携事業	鈴木 克徳、三宅 博之 WGには、宇賀神幸恵会員、野口扶美子会員が参加
組織運営体制の検討	浅井 孝司、鈴木 克徳、福井 光彦、松浦 英人、與儀 滝太
地域担当理事	【北海道】金澤 裕司 【東北】浅野 亮 【関東】鳥屋尾 健、小玉 敏也 【東海・北陸】新海 洋子、鈴木 克徳 【近畿】松田 直子 【中国】池田 満之【四国】松浦 英人 【九州・沖縄】三宅 博之、與儀 滝太
相談役	阿部 治、重 政子
監事	浅見 哲、吉岡 睦子
顧問	池田 香代子、岡島 成行、廣野 良吉、高木 幹夫

■ 事務局

役割	氏名
事務局長	横田美保
事務局スタッフ	齋藤さおり、後藤奈穂美

※組織運営委員は、代表理事を助け、組織運営に係る案件を整理する役割を担い、代表理事及び代表理事が指名する者で構成する。組織運営委員会には、組織運営委員及び事務局長が参加する。

【議案 1】

<2023年度の会員数>

総数157 (かっこ内は前年度の会員数)、±差異を表示

種 類	会員数	種 類	会員数	種 類	会員数
団体正会員	34 (37) -3	団体準会員	9 (14) -5		
個人正会員	44 (48) -4	個人準会員	61 (67) -6		
賛助会員	3 (4) -1	特別賛助会員	1 (1) ±0	連携交流団体	5 (5) ±0

2 組織基盤強化に向けた横断的活動

組織基盤の強化に関し、①ガバナンス体制を見直し、組織の意思決定の透明化、可視化を進めること、②組織の若返りを図り、組織の中核をなす者の世代交代を進めること、③組織の安定的な維持のための財政基盤の強化を図ること、④会員満足度を高める方策等の充実により会員の拡大を図ることの4つが重点課題とされた。なお、それまでの議論で話題になっていなかった「役員に対する報酬の取扱い」についても検討する必要性が生じており、役員報酬に関する方針の明示に向けた検討が追加的に行われている。

組織基盤の強化には慎重な検討を要するため、2年程度の期間をかけて定款を含む組織規則の改訂や世代交代を実現することとし、2024年度の総会に、必要に応じ定款改訂を含めた組織基盤強化の提案を諮ることとした。

特定された課題の検討方式として、組織基盤強化WG担当理事だけでなく、多くの理事からの意見をまとめる形で整理すべく、課題ごとに議論のたたき台となる提案が作成され、理事、事務局に対する意見照会が行われた。2023年2月8日に開催された組織基盤強化WGでの検討結果を同年2月25日の理事会で議論したが、時間不足のため十分な議論が行えなかった。そのため、2023年3月末を目途に理事からの意見を求めた結果、7名の理事から意見が提出された。

議論の進め方について、対面での議論でないオンラインでは十分な意見表明が期待できないとの意見がある一方、東京での対面の議論になると地方の理事からの意見表明ができないとの指摘があり、また、当初予定していた2023年度総会での会員への説明と意見聴取についても、時間的制約から十分な議論の実施ができなかった。そのため、11月30日にハイブリッド方式で、12月15日にオンライン方式で組織基盤強化WG理事懇談会を開き理事との意見交換を行い、その結果を踏まえて12月17日の理事懇談会で集中的な議論を行った。12月27日に理事懇談会の結果を踏まえて作成した「組織基盤強化に向けた課題と対応方針（案）」及び「ESD-J組織運営委員会規程（案）」を理事に送付し、1月8日までに意見を提出するよう求めたが、意見の提出はなかった。

2月3日の第3回理事会で確認した後、「組織基盤強化に向けた課題と対応方針（案）」を会員に公開し、意見を求めている（4月26日締切り）。2024年3月18日に会員への説明会を開催し、会員の意見を聴取した。

3 広報活動

2023年度の広報活動としては、上述の通りオンラインセミナー・勉強会を開催し、地方のESD/SDGsの取り組み、ホットトピックの情報の発信・参加者間の情報交換、ESD-Jのファンづくりに努めた。ウェブサイトの改定作業を継続し、より魅力的な情報発信に努めた。理事の活動紹介のために理事インタビューを行い、インタビューの動画は事務局員が編集しESD-Jのウェブサイト、YouTubeにアップロードした。

○動画掲載先：<https://www.youtube.com/@esd-j5868/videos>

【議案1】

(1) 効果検証に基づく情報発信の強化

ESD/SDGs活動の推進のための情報提供、ESD推進ネットワークの強化に向けた会員の維持・拡大を目指し、メーリングリストの投稿数290件うち、ESD-J関係者による国際情報は約64回、ESD-J関係者による投稿約50回、ウェブサイト、SNSを活用した情報発信・広報ツールの強化、ニューズレターの定期発行（年3回）等による会員等への情報発信を行った。

2023年度の初めに新しいWEBサイトのリリースを行った。（ウェブ解析結果はVIII 参考資料の3を参照のこと）

(2) えるぼし¹の取得に向けた活動

組織基盤の強化として、一般行動計画に基づいて、職員の有給休暇の取得の推奨、有期契約労働者が無期契約労働者へ転換する制度の整備、短時間勤務制度の柔軟な運用のための制度の整備と職員への周知等を行った。また、女性活躍推進企業データベース、並びに当団体ウェブサイトに掲載しているデータを更新した。

VII 会議等予定

会議名	開催日	開催方法
<総会>	2023年6月24日（土）	電磁的方法で開催
<理事会> 第1回理事会 第2回理事会 第3回理事会	2023年5月27日（土） 2023年11月11日（土） 2024年2月3日（土）	原則、電磁的方法で開催
<理事懇談会> 第1回理事懇談会 第2回理事懇談会 第3回理事懇談会	2023年4月23日（日） 2023年8月26日（土） 2023年12月17日（日）	

¹ 厚生労働大臣による女性の活躍推進の状況などが優良な企業、団体の認定制度

【議案1】

VIII 参考資料

1 協賛・後援名義の実績

No.	種類	団体名	イベント・企画名
1	後援	COLOMAGAプロジェクト	子どもローカルマガジンプロジェクトCOLOMAGA各地域版制作活動及び「COLOMAGA サミット vol.3」開催
2	後援	日本学術会議フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会	学術フォーラム SDGsの達成に資するカリキュラムの開発
3	後援	地球温暖化に挑む海洋教育プログラム研究会	「地球温暖化に挑む海洋教育プログラム」教員等研修会
4	後援	公益財団法人 五井平和財団	「令和5年度ローカルSDGs キャンパス・ミーティング」
5	後援	麴町納税貯蓄組合連合会	税を考える週間シンポジウム「納税で持続可能な日本に」
6	後援	公益社団法人ガールスカウト日本連盟	コミュニティアクション チャレンジ100 (CAC100) アワード
7	後援	公益社団法人日本環境教育フォーラム	清里ミーティング2023
8	協力	一般社団法人日本環境教育学会	小中学生によるカーボンニュートラルな社会づくり提案プロジェクト 2023年度「2050年の社会とわたしたちの暮らし」アイデア募集
9	後援	国立大学法人奈良国立大学機構 奈良教育大学	ESD国際シンポジウム in 奈良2024
10	後援	知床ユネスコ協会	知床圏4高校フォーラム2023
11	後援	四国地方ESD活動支援センター	四国ESDフォーラム2024
12	後援	公益財団法人キープ協会	第16回つなぐ人フォーラム
13	後援	成蹊学園サステナビリティ教育研究センター	ESD成蹊フォーラム2024

2 2023年度 ESD-J理事の講師派遣等実績の要旨

活動内容	件数	受益者数
講演・講義	21件	1,113人
委員会委員	21件	378人
その他（イベント・ワークショップ実施、視察対応、研修会の運営、シンポジウム等の参加及びコーディネート、指導助言等）	22件	3,286人
合計	64件	4,777人

3 Google Analyticsによるウェブサイトの分析結果（令和5年度：2023.04.01.~2024.03.31.）

従前のUA（Universal Analytics）がサービス停止のため、2023年4月9日にGA4（Google Analytics4）へ移行したため4月1日～8日までの8日間のデータは含まれない。UAとGA4はデータの互換性がないためこれまで蓄積してきたデータを移行することはできない。また、データの収集方法が異なるため単純に比較できない、同じデータが収集できないといった箇所があることを予めご了承ください。

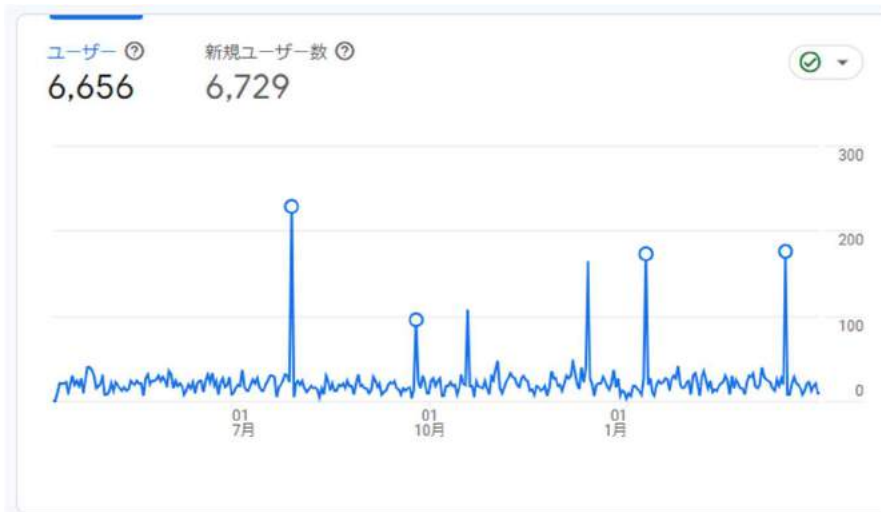
【議案 1】

GA4では、UAでは出来なかったクロスプラットフォームでのユーザー解析が可能となり、例えばPCとスマホ2台を同時に使って操作していたとすると、これまでは2ユーザーと数えたものをGA4では1ユーザーとして認識できるといったように、より正確にユーザーの行動把握ができるようになった。

また、2023年4月よりWEBサイトをリニューアルしました。過去20年間作成してきたWEBサイトの樹状構造を更新の度に上重ねてきた枝別れ構造からデータリンクを外し、現在の団体の活動状況を紹介するWEBサイトと改修し、過去の活動はアーカイブに整理していくスタイルに変更した。ソフトウェアの進化は今後も止まることは無いと思われるため、今のWordPressも10年もすればまたメンテナンス切れとなる。そこで、過去の情報はPDFにまとめる整理の方向性を検討し、引き続き整理を続けている。

(参照サイト：<https://digima.cocoo.co.jp/media/web-ga4>)

(1) 訪問ユーザー数²・セッション数³



- ① ユーザー数は、6,656ユーザー（過去UA比：前年度 18,018 / 前々年度 26,972）であった。
- ② セッション数は、8,384回（過去UA比：前年度 22,050回 / 前々年度 34,780回）であった。
- ③ 平均セッション時間は、1分38秒（過去比：前年度 1分28秒 / 前々年度 1分37秒）であった。

※GA4では「直帰率⁴」の代わりに「エンゲージメント率」が追加され、滞在時間や動画視聴などのユーザー行動を推計するように変化した。

(2) アクセスユーザーの属性

- ① ユーザーの国は全ユーザー6,656のうち、4,848 (72.8%) 日本、669 (10%) アメリカ、168 (2.5%) 中国、95 (1.4%) ドイツ、58 (0.8%) 台湾、52 (0.7%) ロシア、48 (0.7%) フィリピン、44 (0.6%) 韓国、39 (0.5%) インド、38 (0.5%) インドネシア。
前年 (UA) では言語圏で分かっていたが、日本語が75.6%、次いで英語18.4%、残りは中国語、韓国語などのアジアが多く、類似した傾向がみられる。
- ② 使用デバイス別に見ると、デスクトップPCが4,786 (71.6%) (前年度64.7%、前々年度 69.3%)、モバイル1,815 (27.2%) (前年度33.5%、前々年度 28.5%)、タブレット83 (1.2%) (前年度1.8%、前々年度2.2%)。
- ③ OSとバージョン別にみると、Windows10 2,814 (38.7%)、Linux 1,057 (14.5%)、

2 ユーザー数：指定した集計期間において、サイトへの訪問した人数から重複を除いたもの。

3 セッション数：ユーザーがサイト訪問した回数を意味し、別名「訪問数」とも呼ぶ。

4 直帰率：全セッション中、1ページだけで離脱した人の割合。

【議案 1】

Windows7 813 (11.2%)、Mac Intel10.11 719 (9.9%)、Chrome OSX 717 (9.9%)、Windows11 689 (9.5%)、Mac Intel1.15 460 (6.3%)。

(3) 世代別

GA 4 では、世代別は表示されなかった。

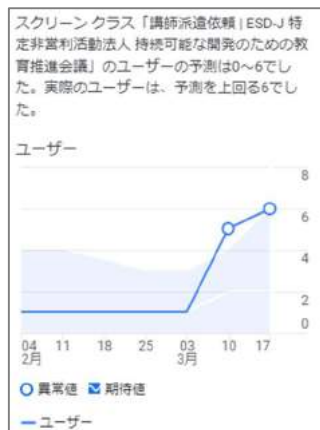
(4) 男女比

GA 4 では、男女比は表示されなかった。

(5) 閲覧者のアクセス経路

新規ユーザー数 (6,729) のうち、検索エンジン経由 (3,204 / 47%)、直接リンク (2,306 / 34%)、他のサイトからのリンク (1,146 / 17%)、ソーシャルメディア (72 / 1%)、動画 (1) であった。

前年度は検索エンジンからのアクセスが半分以上を占めていたが、今年は半分以下にとどまった。その代わりに、直接アクセスや他サイトからのアクセスの増加傾向がみられる。



■ 理事の自己紹介動画

年度の終わりに、やっと理事のインタビュー動画が出そろい、講師派遣・理事の自己紹介サイトに動画が完成しWEBにアップした。

それによりそれまで0だったカウンターが6を示し、異常値として検出された。人々が関心のあるコンテンツを掲載すれば、それに応じてヒット数も自ずと上がることが確認出来た。

- 1.直接リンク 34% (2,312ユーザー/2,845セッション)
- 2.Google 34% (2,281ユーザー/3,575セッション)
- 3.Yahoo 8% (550ユーザー/659セッション)
- 4.Bing 5% (387ユーザー/561セッション)
- 5.esd活動支援センター 0.8% (57ユーザー/117セッション)
- 6.ドコモ 0.3% (25ユーザー/27セッション)
- 7.X・Twitter 0.3% (23ユーザー/29セッション)
- 8.日能研 0.3% (22ユーザー/29セッション)
- 9.横浜国立大学情報基盤センター 0.3% (20ユーザー/46セッション)

【参考：過去比較】

Google (前年度 42.07%/ 前々年度 38.4%)、直接 (前年度 24.19%/ 前々年度 32.8%)、Yahoo (前年度 11.99%/ 前々年度 10.8%)、bing (前年度 9.6%/ 前々年度 5.8%)

検索エンジンからアクセスした場合、セッションあたりの平均エン

ゲージメント時間が約1分と長い。一方、外部リンクから飛んできた場合は、平均エンゲージメ

セッションの参照元	ユーザー数	セッション数	エンゲージメント時間 (セッションあたり)	エンゲージメント率 (セッションあたり)	セッションあたりの平均エンゲージメント時間 (ユーザーあたり)	セッションあたりの平均エンゲージメント率	エンゲージメント率
	6,656 全体の100%	8,384 全体の100%	4,505 全体の100%	1分38秒 平均との差0%	0.68 平均との差0%	9.12 平均との差0%	53.73% 平均との差0%
1 (direct)	2,312	2,845	1,139	28秒	0.49	5.43	40.04%
2 google	2,281	3,575	2,182	54秒	0.96	6.26	61.03%
3 (not set)	809	94	0	1時間18分	0.00	293.96	0%
4 yahoo	550	659	430	1分04秒	0.78	5.60	65.25%
5 bing	387	561	364	1分04秒	0.94	6.22	64.88%
6 esdcenter.jp	57	117	71	28秒	1.25	4.31	60.68%
7 service.smf.docomo.ne.jp	25	27	17	2分21秒	0.68	3.93	62.96%
8 t.co	23	29	14	29秒	0.61	6.14	48.28%
9 nichinoken.co.jp	22	29	9	15秒	0.41	4.14	31.03%
10 lms.ynu.ac.jp	20	46	25	49秒	1.25	4.52	54.35%

【議案 1】

ント時間は、15秒～30秒と比較的短い傾向にある。

※3位のnot setは、事務局によるWEB更新作業と考えられる。ページを作成するためにアクセスするも、ページを作成している途中であるため、パスが構築されておらず、参照先が不明となっている。

(6) 閲覧者の行動

UAからGA4に移行したことにより「ビュー」がなくなり、「データストリーム」という新しいデータベースが追加された

訪問数の高いサイト

順位	タイトル	ページ表示回数	ユーザー	平均エンゲージメント時間
1位	ESD-Jトップページ	30,508	2,891	2分53秒
2位	ESD-J 理事・事務局紹介 (新規：動画作成追加)	1,028	710	1分21秒
3位	ESDとは？	710	485	1分10秒
4位	団体概要 代表挨拶	682	499	39秒
5位	ESDとは (目次ページ)	521	388	11秒
6位	第2回ESDトーク 鈴木大輔さん	392	327	1分25秒
7位	活動内容 (選択肢ページ)	353	201	18秒
8位	活動内容 人材育成	349	113	44秒
9位	SDGsの17のゴール	287	240	1分03秒
10位	【実施報告】2023年度 第3回オンラインセミナー (近畿)	237	92	1分12秒

イベント名	+	↓ イベント数	総ユーザー数
		76,497 全体の100%	6,656 全体の100%
1	page_view	42,425	6,568
2	user_engagement	12,758	4,203
3	session_start	9,158	6,562
4	first_visit	6,729	6,560
5	scroll	3,308	1,766
6	file_download	1,201	512
7	click	644	369
8	view_search_results	100	45
9	form_start	88	45
10	form_submit	86	45

GA4では、「クリックした」「ダウンロードした」などイベント別に回数とユーザー数が記録されている。

- [page_view](#) : ページを閲覧した動作。
- [user_engagement](#) : 1秒以上ページを閲覧した後、次のページに移動した、または離脱した動作。
- [session_start](#) : アクセスを開始した動作。
- [scroll](#) : 初めてページの90%以上をスクロールした動作。
- [first_visit](#) : 初めてウェブサイトアクセスした動作。

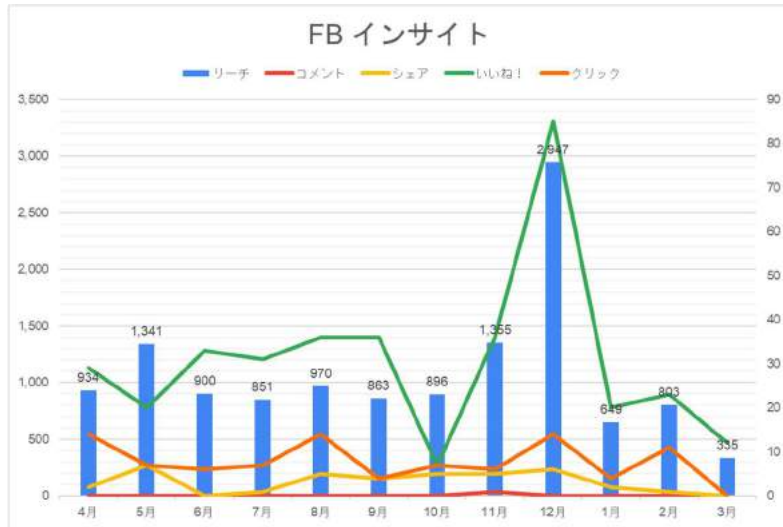
【議案 1】

- file_download : ウェブサイト内のファイルリンクをクリックした動作。
- click : ウェブサイト内にある別ドメインのリンクをクリックした動作。
- view_search_results : サイト内検索をした動作。

(出典 : <https://m-hand.jp/blog/ga4-features-and-precautions/>)

4 Facebook Insightからの集計情報

(1) 年間投稿数



リーチ (左軸) / コメント、シェア、いいね!、クリック (右軸)

今年度の投稿数は、51件（前年50件）であった。リーチ数は12,844人（前年8,679人）であった。また、投稿に対するエンゲージメント：「いいね!」（368件）、記事のシェア（38件）、記事へのコメント（1件）、リンクのクリック（94件）であった。

なお「投稿にリアクションした人数÷投稿がリーチした人数」で算出されるエンゲージメント率を用いて、ユーザーからの支持の高さを測り、エンゲージメント数と、エンゲージメント率を上げるように広報活動は一般的に行うのだが、ESD-Jの年間平均エンゲージメント率は3.9%（前年15%、前々年度3.7%）であった。FBでの平均エンゲージメント率0.5~2%と比較すると昨年からは大きく下がったが、相対的に高い。

FBフォロワー数は、2,270人（前年：2,271人、前々年度2,154人）ひとり減。

年代別性別はグラフの通り。FBのユーザー層が40代とあるとおり、40歳代のユーザーが多く、若い世代のフォロワーは少ない。

